

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23510328

研究課題名(和文) 東アジア植民地期映画フィルム史料の多角的な研究モデル構築

研究課題名(英文) Constructing a diversified model of researching on East Asian Film History under colonization

研究代表者

三澤 真美恵 (MISAWA, Mamie)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：90386706

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では以下の3点を実施した。(1)平成20～21年度科研費(挑戦的萌芽)「植民地期台湾映画フィルム史料の歴史学的整理分析」を引き継ぎ、国立台湾歴史博物館に所蔵された植民地期台湾映画フィルム史料の採録データベースを構築し、「台湾映画フィルム史料」としてウェブ上で公開した。(2)国内外の研究者を招請して研究会などを開催し、異なる視点による研究可能性を探求すると同時に、上記フィルム史料を活用した個別研究を進めた。(3)植民地期映画フィルム史料の多角的な研究モデルを構築するため、報告者自身が各地で学会報告や講演を実施して国際的なネットワークを広げると同時に、複数言語で研究論文を発表した。

研究成果の概要(英文)：This research project achieved the following three results. (1) Carrying over the research results of Grant-in-Aid for Scientific Research (Type of Grants Programs: Challenging Exploratory Research, 2008-2009) “Historical Analysis and Classification of Film Records on the Colonial Taiwan,” built up a literal database of Colonial Film Materials in Taiwan collected by the National Museum of Taiwan History, and released it on a website entitled “Film Materials in Taiwan.” (2) Inviting researchers from Japan and abroad to hold workshops, employed their different perspectives to implement specific and individual research of the Colonial Film Materials in Taiwan. (3) Aiming to construct a diversified research model of colonial film materials in East Asia, the principal investigator presented the results of this research in various regions and published them in various languages to gain feedback on the research model and expand the international research network.

研究分野：地域研究

キーワード：東アジア 映画フィルム 国際情報交換(台湾) 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、東アジア各地で植民地期を含む古いフィルムが発見され、急速に研究が進展した。しかし、その研究はメタ・データ(何時、何処で、誰が、何を製作したか、というコンテキストを説明しうる情報)の存在する劇映画を対象にしたテキスト分析が中心であり、メタ・データの存在しないフィルムについては、研究の対象にされにくい傾向がある。言い換えるならば、既存の映画研究の方法で進められる劇映画はともかく、断片的な記録フィルムのようにストーリーやメタ・データの存在しない映画フィルム史料については、いかに研究を進めるべきか、これらを用いてどのような研究が可能なのか、模索の状態が続いている。

(2) 台湾においても、現存しないと思われていた植民地期台湾の映画フィルムおよび映画検閲脚本が2003年に発見され、国立台湾歴史博物館に所蔵された。同史料については、デジタル化を行った国立台南芸術大学、所蔵機関である国立台湾歴史博物館(以下、台史博と略記)が、それぞれ研究を進めた。だが、メタ・データが不詳なものが多いことに加え、ほとんどの史料の使用言語が日本語であることもデータ整備における困難の一因となった。こうした状況下、報告者は台史博より共同研究の要請を受け、平成20-21年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「植民地期台湾映画フィルム史料の歴史学的整理分析」(研究代表者:三澤真美恵)を得て、上記史料のデータ採録、整理分析を試みたが、なおいくつかの課題が残された。

2. 研究の目的

(1) 台史博フィルム史料の整備・公開:上記の挑戦的萌芽研究の成果を引き継ぎ、採録データにおける不詳な点を調査し、明らかにする。さらに、校正を行ったうえでデータベースを構築し、ウェブ上で公開、広く研究調査に資する。

(2) ケース・スタディ:台史博フィルム史料を中心に、メタ・データが不詳なフィルム史料に関する多角的な研究の可能性を具体的に提示する。

(3) 多角的な研究モデルの構築:台湾・韓国・香港などの研究者との間でケース・スタディを検証し、東アジアにおける植民地期映画フィルム史料一般に援用可能な研究モデルを構築する。

3. 研究の方法

(1) 台史博フィルム史料の整備・公開:映画検閲脚本については、すべてを対象として、手作業で文字データを入力する形で採録し、校正を加える。映画フィルムについては、日本フィルムセンターとの重複調査、台史博フィルム史料内における映画検閲脚本との重複調査を経て、「4. 研究成果」で後述するように6つのグループに分け、希少性の高

い史料のみを採録公開の対象とする。具体的には、各映像データにおけるシーン・ショットごとの被写体や挿入字幕、ナレーションやセリフなどを、文字データとして手作業で入力する形で採録し、校正を加える。研究室ホームページを立ち上げ、脚本と映像の各採録データをデータベース化して、ウェブ上で公開する。

(2) ケース・スタディ:研究者を招請して研究会やワークショップ、シンポジウムなどを開催し、近接領域の研究状況や異なる方法論を学ぶと同時に、研究者ネットワークを構築する。そのうえで、台史博フィルム史料に関心のある研究者に同史料を活用した論文の執筆を依頼することで、多角的な研究の可能性を探る。

(3) 多角的な研究モデルの構築:報告者自身が東アジア各地で学会報告や講演を実施して、台史博フィルム史料に関する研究を紹介すると同時に、異なる言語や異なる歴史的文脈をもつ研究者との議論を通じて、東アジアにおける植民地期映画フィルム史料一般に援用可能な研究モデルを構築することをめざす。

4. 研究成果

(1) 台史博フィルム史料の整備・公開:映画検閲脚本については、同タイトルのものでないものは原則すべてを対象として、手作業で文字データを入力する形で採録し、校正を加えて、データベース化した。映画フィルムについては、日本フィルムセンターとの重複調査、台史博フィルム史料内における映画検閲脚本との重複調査を経て、以下の6グループに分けた。すなわち、「0群=欠番および判別不能のフィルム、外国製のフィルム」、「1群=台史博のみに所蔵があるフィルム」、「1S群=1群のうち、台史博フィルム史料中に同タイトルの脚本採録データがあるもの」、「2群=日本フィルムセンターに所蔵が確認されるもの」、「2S群=2群のうち、台史博フィルム史料中に同タイトルの脚本採録データがあるもの」、「3群=戦後に撮影されたと思われる北京語トーキー」である(「3群」は植民地期の史料ではないため、2015年1月29日に報告者と台史博でデータのウェブ公開前に新たに交わした協議書で今回の共同研究の対象に含まないことを確認した)。このうち、本研究では希少性の高い「1群」史料のみを対象とし、各映像データにおけるシーン・ショットごとの被写体や挿入字幕、ナレーションやセリフなどを、文字データとして手作業で入力する形で採録し、校正を加え、データベース化した。研究室ホームページ(misawa.pbworks.com)を立ち上げ、上記

の成果たる「脚本採録データ」「映画フィルム採録データ」を2015年3月26日に「台湾フィルム史料」として公開した(図1、図2、図3を参照)。なお、同ページでは、各採録データ(文字)が台史博ホームページ上の

画像・動画データとリンク付けされている。

図 1: 「台湾フィルム史料」トップページ



図 2: 脚本採録データの一例



図 3: 映像採録データの一例

映像採録番号	映像採録情報	映像情報	備考
1	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
2	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
3	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
4	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
5	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
6	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
7	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
8	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
9	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	
10	『台湾の歴史』(1945年)	台湾の歴史(1945年)	

(2) ケース・スタディ: 異なる方法論をもつ研究者を招請して、研究者ネットワークを構築し、台史博フィルム史料を活用したケース・スタディを進めるために、各年度で以下のように定例研究会、ワークショップ、シンポジウムなどを実施した。

2011年度: 2011年10月20日(日大文理学部人文研との共催)研究会、アルノ・ナンタ「日本を世界史の中に捉え直すために: 植民地主義の歴史と<記憶>闘争」; 2011年11

月22日研究会、李道新「中国映画史: 理論と実践」; 2012年2月18日(一橋大学言語社会研究科主催、本科研共催)国際シンポジウム「1930年代台湾における大衆文化」李承機「植民地台湾における声の大衆文化と文字の文化」早熟したオラリティーと未熟のリテラシー、陳淑容「1930年代台湾大衆閱讀社群の形成與發展」以「新鋭中篇創作集」を中心、黄美娥「從1930年代台湾漢文通俗小説場域論徐坤泉創作的意義」、柳書琴「航路與美人」1930年代台湾大衆小説中製作的海外摩登文化、石婉舜「尋歡作樂者の涙滴」戲院、歌仔戲與殖民地的現代」; 2012年2月27日(日本大学文理学部人文研との共催)研究会「東アジアにおける映画と弁士」成田雄太「活動弁士は「映画」をつくるか」日本と台湾の事例を手掛かりに、李敬淑(イ・ギョンスク)「試論と再論の間、朝鮮弁士研究の現況」。

2012年度: 2012年6月24日(日大文理学部人文研との共催)研究会、土屋由香「広報文化外交としての原子力平和利用キャンペーン」原子力平和利用 USIS 映画に焦点をあてて」; 2012年9月29日(日大文理学部人文研との共催)研究会、ヨハネス・シューンヘル北朝鮮と東ドイツ: メディアによる大衆の形成」; 2012年10月13日国際ワークショップ「東アジア植民地期における映画フィルム史料をいかに読み解くか」三澤真美恵「皇民化を目撃する: 映画『台南州国民道場』考察」、劉麟玉「映画『南進台湾』に見られる音楽的要素」、金麗実(キム・リョシル)「朝鮮映画の研究における現況と課題」、許殷(ホウン)「生きている歴史、動く資料」韓国近現代の映像におけるアーカイヴィングと歴史研究の拡張」、邱淑婷「日本占領軍による香港映画工作とその構想をめぐって」。

2013年度: 2013年4月15日(日本大学文理学部人文研との共催)研究会、オリヴィエ・ヴィヴィオルカ「フランスにおける第二次世界大戦の記憶: ステイクとアプローチ」; 2013年4月20日研究会「戦時東アジアのスクリーン」アン・ニ「満州映画館の変遷と日本映画の上映」、李敬淑(イ・ギョンスク)「帝国と植民地の女優: 戦時下日本・朝鮮映画における女優表象の比較研究」。

2014年度: 2014年10月3日研究会、町田祐一「植民地台湾における映画利用について」国立台湾歴史博物館所蔵の教化・文化映画を中心に、葛西周「植民地期台湾の文化映画で用いられた音楽に関する考察」。同研究会での報告は、いずれも台史博フィルム史料を活用した成果であり、同年度中に『中国語中国文化』誌上に査読付き論文として公開された。

報告者自身も採録データベース構築の作業と並行して、各地での研究調査を行い、台史博フィルム史料中の脚本に関する調査(映画のジャンル、検閲印の番号・有効期間、検閲者による書き込みなど)、同史料中の映画

フィルムに関する調査（セリフや被写体からタイトルを検証する作業を中心に、以下6項目：種別／同タイトル作と思われる資料番号／タイトル名の判断根拠・を同タイトルとみなす根拠／当該資料に特徴的な字幕やセリフや場面など／JDC（日本映画情報システム）の作品データ／同タイトル作品と思われる資料について想定される上映順序）を進め、その成果を「脚本基礎調査表」「映画フィルム基礎調査表」として研究室ホームページの「台湾フィルム史料」で公開した（図4、図5を参照）。

図4：「脚本基礎調査表」ページ

図5：「映画フィルム基礎調査表」ページ

(3) 多角的研究モデルの構築：報告者自身がアメリカ合衆国、韓国、台湾などの各地で学会報告や講演を実施し、日本語のほか、英語、中国語、韓国語、フランス語などの言語（翻訳含む）で研究を発表し、研究ネットワークを広げると同時に、東アジアにおける植民地期映画フィルム史料一般に援用可能な研究モデルを構築することを目指した。具体的な報告や講演の日時や題目については本報告書「5. 主な発表論文等」を参照されたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4点)

三澤真美恵「国立台湾歴史博物館所蔵「植民地期台湾映画フィルム史料」の特徴」『メディア史研究』38号(査読付、掲載許可済、2015年内刊行予定)

Mamie Misawa, "Colony, Empire, and De-colonization" in Taiwanese

Film History, International Journal of Korean History 19/ 2(2014/08), Seoul: Korea University, pp.35-70 (査読付)

Mamie Misawa, «Aliénation ou acculturation coloniale? Taiwan et l'énigme" d'un succès : le Festival du film japonais de Taipei (1960) », (traduit par A. Nanta, L.Lespoulous et A.Kerlan), Cipango - cahiers d'études japonaises, numéro 19, 2012, à paraître 2013 (査読付)

三澤真美恵「「皇民化」を目撃する：映画『台南州 国民道場』に関する試論」『言語社会』7号(2013年3月)東京：一橋大学、101-119頁

〔学会・シンポジウム発表〕(計 9点)

三澤真美恵「植民地期台湾における映画～戦時下で製作された『台南州国民道場』『台湾勤行報告青年隊』を事例として」明治大学情報コミュニケーション研究科フォーラム「戦後70年 国際シンポジウム：東アジア表象メディアの創出と伝承～沖縄・台湾・韓国、そして日本の戦前・戦後～」2015年3月16日、於明治大学グローバルホール

三澤真美恵「1950年代前半期台湾電影院「国歌儀式」的確立」国際學術研討會「影像與史料：影像中的近代中國」2014年10月11日-12日、於國立政治大學

三澤真美恵「植民地期台湾史研究で「公共性」を問うことの陥穽」日本植民地研究会 第22回全国研究大会「共通論題：植民地権力と「公共性」」2014年7月6日、於立教大学池袋キャンパス本館2階1202教室

Mamie Misawa, "“Colony, Empire, and De-colonialism” in Taiwan Film History," International Conference "New Approaches to History Through the Visual Media," July 5, 2014, at Global Conference Room, Centennial Memorial SAMSUNG Hall, Korea University, held by the Organizing Committee: The Collecting and Digitizing Project on Film Documents in Modern Korea, Center for Korean History, Korea University

三澤真美恵「初期台湾電影史研究的方法與課題」国際研討會「東亞脈絡中的早期臺灣電影：方法學與比較框架 (Early Taiwan Cinema: the Regional Context and Theoretical Perspectives)」2014年4月26日、主催：國立臺北藝術大學 電影與新媒體學院電影創作學系

Mamie Misawa, "Visualizing the Process of Becoming Japanese: Colonial Taiwanese Film Civilian Dojo," The Association for Asian

Studies Annual Conference, March 23, 2013, at Manchester Grand Hyatt in San Diego

Mamie Misawa, "Narrating Histories of Motion Picture in Colonial Taiwan: Present State and Problems," March 16, 2013, at Korea University

三澤真美恵「日治時期臺灣電影發展總論」(北師美術館序曲展・專題學術講座) 2012年12月22日、於：国立台北教育大学・北師美術館、主催：国立台北教育大学・北師美術館(贊助：交流協會、日本航空)

三澤真美恵「植民地台湾映画フィルム研究資料へのアプローチ」2012年6月9日、於：国立民族学博物館、主催：国立民族学博物館共同研究「音盤を通してみる声の近代 台湾・上海・日本で発売されたレコードの比較研究を中心に」(研究代表者：劉鱗玉)

〔その他〕(計 1点)

ホームページ

「三澤研究室」misawa.pbworks.com

> 「台湾フィルム史料」

http://misawa.pbworks.com/w/page/86525740/CTF_index_Colonial_Taiwan_Film

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三澤 真美恵 (MISAWA, Mamie)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：90386706